



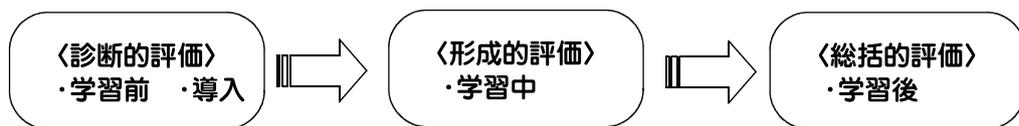
めあてとは…

前回紹介した「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条」をもう一度確認します。

- 1 本時の目標や学習課題を明確に示す
- 2 自分の考えを表現する活動を取り入れる
- 3 自身の学びを自覚できるまとめ・振り返りを行う

この中でも、「1 本時の目標や学習課題を明確に示す」について、考えてみたいと思います。ここで示される「目標」はいわゆる「めあて」と言われるものです。「学習課題」はまた違うものですが、この違いはまた後ほど考えたいと思います。授業の初めに「めあて」を提示することは、私が教師になる前から授業の基本として伝えられてきました。でも、一方ではめあてなんか必要ないという方もいます。ちなみに秋田県はどちらかというと全員が「めあて」を板書する取り組みを進めています。逆に福井県は書くか書かないかは自由になっています。同じ高学力の県でも取り組み方に違いがあります。では、どちらでもいいならあまり必要ないのではないかと結論づけたいところですが、「めあて」を意識して授業をしているか、していないかで意味が違ってくるのです。みなさんは、毎時間「めあて」を意識して授業をしていますか？

「めあて」とは、本時の目標を指しているのですが、これはこの1時間で子供たちにどんな力をつけたいのかと言うことです。そこで、関係してくるのが「教育評価」という考え方です。教育評価は、「診断的評価」「形成的評価」「総括的評価」の3つに分化されます。「診断的評価」は教育による働きかけの前に子供の状態を把握すること、「形成的評価」は指導の途中で行われる評価、「総括的評価」は単元末や学期末など学習の締めくくりに学習の到達点を把握することになります。まさしく本時のめあては形成的評価の指標を指すことになり、この評価と学習指導が相互往還的になっているかを見極めていくことが「指導と評価の一体化」というものになります。



「めあて」がないと学習指導を評価することができなくなり、筋の通った授業ができたかどうかわからない、いわゆるぼやけた授業になってしまうのです。

… to be continued …

参考文献：「新しい教育評価入門」西岡加名恵 他著（有斐閣コンパクト）

「授業設計マニュアル」稲垣 忠 他著（北大路書房）